

4.川とかかわる文化

川を歌おう！ ... 川の入った校歌

第1章 十勝の平野や川がでざるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



ここで紹介した校歌に出てくる川。

学校の校歌は、子どもたちの努力と成長への願いをこめた歌です。その願いのシンボルとして、よく山や川など地域の自然が歌われます。

十勝の学校の校歌の中には、近くを流れる川が歌詞に入っているものがたくさんあります。

川の持つ、清さ・たゆまない流れ・せせらぎの音が、心の美しさや努力を続けること、はげましの声などのイメージとして歌われているのです。

みなさんの学校の校歌はどうでしょうか？

川の名前が入った校歌の中から、いくつかを紹介いたします。



清水町立御影小学校。

御影小学校の校歌

作詩：佐々木 円太 作曲：佐藤 霜月

1. (省略)

2. 清き流れの十勝川

つきぬ流れをながめつつ
真剣努力をめじるしに
いざやみがかん我が知識



(以下省略)

東土幌小学校の校歌

作詩・作曲：加納 利雄

1 ~ 2. (省略)

3. 土幌川夕日にはえて

今日もまたよどまぬ流れ
わざをつみかしくなれと
かなでるよせせらぎの音
ふるさとよ東土幌東土幌の
まなびやにあれ
美しく星もまたたくよ



愛国小学校の校歌

作詩：早川 義英 作曲：斉藤 安幹

1. 札内川の水清く

柏のみどり薫とこ
父祖の使命を受けて立つ
ああ伝統の愛国校



(以下省略)

とむらうししゅうちゅうがっこう
富村牛小中学校の校歌

作詩：尾沢 彰 作曲：景山 斎

1. (省略)

2. もみじや花を浮かばせて
流れも清き十勝川
果てなく続く樹の海に
小鳥や鹿を友として
われらは強く育ちたり



(以下省略)

ひろのしょうがっこう
広野小学校の校歌

作詩：石谷 広保 作曲：景山 斎

1. (省略)

2. しぶき玉散る戸蔦別川の
流れは清くたゆみなく
みんな仲良く肩組んで
学びの技を励みゆく
知性溢れる広野校



(以下省略)

校歌の歌詞の掲載については、各学校から許可をいただいています。

ヒット曲の歌詞になった(?)「もぐり橋」

昭和31年(1956)に、利別川の新水路にかけられた川合橋(池田町)は、堤防と堤防の間ではなくて、河川敷と河川敷の間にはかけられました(今はもうありません)。

そのため、大雨が降って川の水が増え、水の下にもぐります。このことから、地元の人には「もぐり橋」と呼ばれていました。(p206)

平成4年(1992)、「晴れたらいいね」という歌が発表され、NHK朝のテレビ小説「ひらり」の主題歌にもなりました。

この歌には「雨が降ると川に沈む橋」という意味の歌詞があります。(実際の歌詞は少しちがいます)

この歌を作った吉田美和さんは池田町に生まれ、育ちました。

「晴れたらいいね」は、吉田さんが子どものころに体験したことをベースにイメージをふくらませて作詞したものだといわれています。

「川に沈む橋」は、「もぐり橋」(川合橋)のイメージがもとになっているのかも知れません。



かつて川合橋があり、今、川合大橋があるところ。池田町字川合。



利別川の水が増え、川の水に「もぐって」いる川合橋。
(写真：『十勝川写真で綴る変遷』より)



取りこわされる前の「もぐり橋」と川合小学校の児童や父母・教師ら。左後ろが今の川合大橋。

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん